

見た・聞いた・考えた

― 北欧の福祉・教育を考える旅から ―

〈寄稿〉 全障研事務局長 蘭部 英夫さん

第2回 福祉の思想

今年の1月、父を看取った。78歳。2006年に脳梗塞で倒れ、片マヒに。「字が書きたい」願いは懸命のリハビリで叶うも、昨年春頃から衰えがすすみ、お盆すぎには一人で立ち上がれなくなった。秋からは、30キロエリアで唯一空きのあった介護型療養病院で過ごしていた。

障害者権利条約実現の牽引者Ⅱドンマツケイ議長は、「平均寿命70歳を越える国の人々は、平均8年間、人生の11・5％は障害をもちながら過ごす」と言う。日本の場合、そのうちの要介護期間は男1・5年、女3年だ。これは長いのか短いのか・・・。

大「改革」は消費税前提にアケセル全開だ。推進室長は、障害者自立支援法で「福祉は買うもの」「それが新しい福祉の考え方」と国会で豪語した中村秀一社会・援護局長(当時)だ。今度のドジョウ首相も増税命!だ。



写真2 一階の生活支援センター

なので受診者が増えるためだそう。昨年秋、人口4万の町のグループホーム+生活支援センターを訪ねた。町中の静かな共同住宅群のなかにある3階建て12戸の素敵なアパート(写真1)だった。

者年金は年約300万円。驚いたのは額面だけではない。障害のない人たちの失業保険と同額が当たり前のこととして保障されていることだった。



写真3 ハンスと彼の部屋

蘭部さんの著書

北欧 考える旅
福祉・教育・障害者・人生



全障研出版部
1700円+税

チェルノブイリから考える福島原発事故

注目の「原発問題を考える学習会」開催

部内資料
発行責任者 太田 勲 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)

3・11東日本大震災からちょうど半年となった9月11日、共産党池田ファンクラブは、共産党池田・松川支部、新日本婦人の会などと実行委員会形式で「原発問題を考える学習会」を開きました。

東電福島第一原発事故の深刻さから、今回の学習会への関心はきわめて高く、小さな子どもさんを連れとお母さんを含め70数名が参加しました。

講演では、「チェルノブイリ救援・中部」理事の小牧崇さんが「チェルノブイリから学ぶ原



講演する小牧崇さん(福祉会館)

発の危険性」と題し、長年の救援活動と現地調査にもとづいて報告を行いました。

「低線量」でも怖い放射能
内部被曝が大問題

小牧さんは、二人目の子どもが生まれようとしているときにチェルノブイリの事故が起こり、それ以来20年にわたって汚染地帯の救援活動に携わるようになったと語りました。

その後、チェルノブイリを中心とした広範な汚染状況や復旧にあたった消防士の悲惨な状況などを写真で説明。「菜の花プロジェクト」を立ち上げて除染活動に奔走した経験を福島でも活かすことが大切だと訴えました。

とくに内部被曝の問題では、「チェルノブイリは500〜600kmの遠距離でも高濃度汚染が発生している、福島はまたまた海に流れたが、福井や新潟の原発が事故になれば、風下の長野は甚大な被害」「危険なのは空気・水・食物からの内部被曝だ。広島・長崎原爆では全く明

らかにされていない、証明は難しいが将来的に影響は大きい」と内部被曝の危険性を強調。質問もこの問題に集中するなど参加者の注目を集めました。

「学習の継続」など
今後のとりくみを確認

実行委員会は今後の課題として、①世論を変えていく学習会の継続、②東日本大震災に対する支援の強化、③「原発から撤退を求める署名」の取り組みを提案、参加者全員の拍手でこれを確認しました。

当日は池田町からもマイクロバスで参加します。

第34回 赤旗信州 秋まつり

10月16日(日)
午前9時開場
松本市・やまびこドーム

記念講演 **市田忠義**
日本共産党書記局長

コラム 有明

▼長野県母親大会記念講演の講師は日本弁護士連合会会長の宇都宮健児氏でした▼氏はサ

ラ金3悪(高金利、過剰融資、過酷な取り立て)を規制する立法運動に身体を張って取り組んできた弁護士であり、「反貧困ネットワーク」を結成して「年越し派遣村」では貧困の実態を世に明らかにしたことも知られています▼東大3年生の時一念発起し弁護士を目指して猛勉強し翌年には合格、親の生活が苦しかったこともあり、授業料がもつたいなくて大学は中退。弁護士になったのは良いけれど、世渡りが下手なため仕事をとれず13年間もイソ弁(居候の弁護士の意味)生活。▼サラ金被害者が急増し、受ける弁護士がいらないからと頼まれサラ弁(サラ金専門弁護士)に。その後豊田商事、オウム、武富士事件などでも大活躍▼湯浅誠さんは宇都宮さんの著書「弁護士、闘う」の推薦文で「いばらない、きこらない、かざらない、良心的で、良識的で、だけど徹底的、公平で、公正で、そして弱者の側に立ちきる、現場を持ち、社会に訴え、そして政治に働きかける。私たちは、闘う弁護士宇都宮健児に理想的な活動家像を見る」と書いています▼彼が弁護士会のトップにいることの意義ははかりしれないくらい大きいのです。